

第1回計画策定部会 議事録

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 平成27年6月30日(火) 午後6時30分～午後8時30分 |
| 開催場所 | 尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホールA室 |
| 出席委員 | 勝木委員、瀧川委員、橋本委員、伊藤委員、大堀委員、梅林委員、杉原委員、高谷委員、徳田委員、森本委員、山田委員、後藤委員、迫委員 |
| 議題 | (1) (部会長)による副(部会長)の指名 (2) 現行計画の体系と国が示す行動計画策定指針について (3) 新たな次世代計画の策定にあたり整合を図るものについて 尼崎市総合計画 まち・ひと・しごと創生総合戦略 尼崎市子どもの育ち支援条例 尼崎市子ども・子育て支援事業計画 (4) 尼崎市次世代育成支援に関する中高生向け意識調査結果について |
| 資料 | ・資料1-1 尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画の体系図 ・資料1-2 行動計画策定指針における修正・追加 ・資料2-1 尼崎市総合計画 ・資料2-2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 ・資料2-3 尼崎市子どもの育ち支援条例の概要版 ・資料2-4 尼崎市子ども・子育て支援事業計画 ・資料3 尼崎市 次世代育成支援に関する中高生向け意識調査結果 |

開会

配布資料の確認

1 部会長による副部会長の指名

尼崎市子ども・子育て審議会条例第8条第3項に基づき、部会長の指名により、伊藤委員が副部会長に就任
(異議なし)

2 現行計画の体系と国が示す行動計画策定指針について

資料1-1、資料1-2に基づき、説明

(部会長)

ありがとうございました。

比較していただいて、右端に項目を書いていますけれども、今の説明について何かご質問あるいはご意見ございませんでしょうか。主に質問になるかと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ。

(委員)

この右側にいろいろ書いてある目的を充実させたり、設定したりすることのために何をするのかという具体的なことを決めるということですか。

(事務局)

資料1-1をもう一度見ていただくと、計画の策定に当たっては、こういった基本目標です

ね。木の幹の部分を決めて、その枝葉の部分をつくるという、この全体図を描くに当たっての施策の体系、骨格というものをどのようにしたらいいかという意見を答申として、この部会で案をまとめていただくことになります。

具体的に、こういった事業をやりなさい、こうしなさいということではなくて、尼崎市の今度の計画において、計画の全体図、骨格は、このようなものもいいのではないかとかという答申をまとめていただくイメージでございます。

(部会長)

よろしいでしょうか。現実にはどうするのかをお聞きになりたいということですね。

(委員)

そうですね。そういう意味です。誰がどこでどういうふうにするのかなというのが、はい。

(事務局)

全くゼロから組み上げるということではなく、こういった指針であるとか、現行計画の進捗管理を毎年度、施策評価を行っておりますので、今後また取り組むべきこと、継続していくべきものというのをまとめたものを事務局で資料化してご用意させていただきます。それらを基にご議論いただいて、答申としてまとめていただくというようなイメージになると思います。

(委員)

ここで決めるのは、幹になる部分というか、軸になるところを決めるということですよ。方向性であって具体的なことは、事務局で決めて、それを実際にやっていくということになるのですか。

(事務局)

事務局が決めるということではなく、ご議論いただくためのたたき台をお示しする形になると思います。

(部会長)

特に、ここでの現状とか市民委員の普段の見聞きされていることとかをお伺いして、その方向と照らし合わせて、尼崎に必要な施策にどう落とししていくかということです。ですから、市民委員のご意見が非常に多く反映される機会じゃないかなと思っています。よろしいですか。

(委員)

はい。

(委員)

施策がある前に問題点とか課題があると思いますが、前回の子ども・子育て審議会にいただいた資料のみということですか。

(部会長)

今気になるところがあれば、聞いてください。

(委員)

今までのところでは枝葉、目標 - 施策 - 事業ありますが、課題が載ってないので、現状の課題が示されていないのではないのでしょうか。

(部会長)

今はまだそこまでは入っていないくて、大体の流れをご説明いただいております。

(委員)

目標があって、その目標に達していない課題があって、それに対する施策だと思います。

(部会長)

今回はまだそこまでいってなくて、意識調査とかアンケート調査とか。

(委員)

現状把握ですか。

(部会長)

はい、そうです。そのあたりを共通認識として委員の方に周知していただくということです。

(委員)

現状把握については、以前からいただいている資料を各自見ておくということですか。

(部会長)

今日の資料も含まれます。もし、ここの部分がわからない、詳しく知りたいと思われたら、今お聞きいただけますか。事務局が答えられる範囲で答えると思います。

(委員)

分かりました。

(部会長)

よろしいですか。

(委員)

はい。

(部会長)

他に何か分からないということがありますか。

今日は詳しいところまで審議しないということで、よろしいですね。例えば、ハイリスク家庭がどれくらいあるかとか、どのような現状があるかではなく、今回はその枠組みだけを先に進ませていただく予定だと思います。まずは、流れだけを先に追っていきます。

それでは、議題2の説明が終わりましたが、新たな次世代計画の策定に当たり、整合を図るものについてというところで、尼崎市の総合計画など4つが挙がっていますが、そのあたりの整合性についての説明をお願いします。

3 新たな次世代計画の策定に当たり整合を図るものについて

資料2 - 1、資料2 - 2、資料2 - 3、資料2 - 4に基づき、説明

(部会長)

ご説明ありがとうございました。尼崎市の上位計画である総合計画から順番に子ども・子育て支援事業計画のところまで説明していただきましたけれども、疑問や質問などありますでしょうか。

(委員)

施策の概要の中で、子どもの育ち支援ワーカー等が横断的にお仕事をしてくださっていますので、横のつながりを持って事業が進行されており、なるほどと思いましたが、1つ気になっているのが27ページの施策の子ども・子育て支援と障害者支援と生活支援の重なる部分です。私は小児科医ですが、発達の問題を抱えている子どもたちが統計学的にも4%か5%、発達障害の発症率だけでもそれぐらいの数字でています。ひょっとしたら、もう少し多いかもしれません。不登校の問題についても、その発生頻度も3%から5%なので、恐らく尼崎市内でも1,000人以上を超えていると思いますが、この3つの施策の重なる部分だと思います。

しかし、子ども・子育て支援事業計画では、健常児だけを取り上げていますので、尼崎市ももう少し障害者と生活支援をグレーゾーンにかけて、もう少しオーバーラップした3つの輪の

重なる部分についての施策も入っていただけたらなと。この子育て支援条例の中の項目を見て、少し感じました。

(部会長)

貴重なご意見ありがとうございました。

こちらの子ども・子育て支援事業計画は、量の見込みを中心に計画策定したわけですが、他の部会では、私の知る限り、障害のある子どもと、そうでない子どもを区別せずに全ての子どもという具体面で審議をしていったような記憶があります。

(委員)

例えば、資料2 - 4につきましては、国から定められた事業計画ということで数字のみです。需給計画の策定を検討した会議だったと思いますが、部会長から話がありましたように、就学前の教育・保育のあり方検討部会などは、子どもたち全体を対象に検討が進んでいたかと思えます。

今後、この計画策定部会で検討していく中で、恐らく子どもたち全てということを考えながら、改めて抜け落ちていない点はないのかとか、もう少し充足したほうがいいところはないのかを検討していく必要があるのでは感じました。

(事務局)

1点補足させていただきます。まず、総合計画の26ページをご覧ください。施策が1番から20番までが、全て4つのありたいまちの実現に向けた施策の展開として、各施策の関係をマトリックスで示されております。例えば、4番目の子ども・子育て支援であれば、4つのありたいまちのうち、「子どもや人材が育つこと」「支えることのできるつながりをつくること」ということで、1番目の「人が育ち、互いに支えあうまち」と、2番目の「健康、安全・安心を実感できるまち」、4番目の「次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち」と特に関連しているとなっております。縦をご覧くださいと、例えば、子ども・子育て支援と障害者支援については、1番、2番で関連すべきところという整理になっております。具体的に、41ページ、42ページをご覧くださいと、子ども・子育て支援の施策の展開方向や具体的な記述となっております。42ページの右端にリンクと記載されていますが、子ども・子育て支援と特に関連の深い3つに絞り込んでおります。子ども・子育て支援となると、かなり広域的に関連しますが、その中でも特に関連が深いと思われる3つ、学校教育、生活支援、地域保健を挙げさせていただいております。委員のご指摘のとおり、縦で切ってしまうのではなく、横断的・総合的に見えています。

加えて、子どもの育ち支援条例の理念としても、全ての子どもを対象としておりますし、現行の後期計画の体系図におきましても、資料1 - 1で、目標1「子育てを楽しむ家庭環境づくり」施策3「社会的支援を必要とする子ども・家庭への支援」に、ひとり親家庭への支援と併せて、要支援の子どもへの支援や、障害のある子どもとその家庭への支援を基本施策としておりますので、引き続き、これまで以上に連携したような形でつくり込みできればと考えております。

(部会長)

はい、ありがとうございました。

そのほかにご質問ございませんでしょうか。

それでは、次の議題、4番目の尼崎市次世代育成支援計画に関する中高生向け意識調査結果について、これも少し長くなりますが、事務局からご説明をお願いします。

4 尼崎市次世代育成支援に関する中高生向け意識調査結果について

資料3に基づき、説明

(部会長)

膨大なデータを整理していただいております。また要所毎に男女別の表なども掲載されています。なかなか興味深い資料だと思いますが、ご感想やご質問がございましたら、どうぞ自由にご発言ください。いかがでしょうか。

(委員)

全体的に、結婚や子ども・子育てに関して不安に思うことがすごく多いのかなと思いました。現状を把握していなくても、親から何となく感じるところがあるのかなと。

私もよくお家で、まだ幼い子どもを相手に、子育ては大変だという話をするのですが、そういうことを日々親から聞いていたりするのかなと思います。もう少し子育てをする母親の実感としては、乳児医療がもう少し手厚くなればいいなとか、保育園や幼稚園に関しても、数が全体的にちょっと少ない。取り組んでいらっしゃるところだとは思いますが、数自体が少ない。国際的に見ても、日本は1人の先生が見る子どもの人数がとても多い。アメリカやフランスは、1人の先生に対して8人なのに、日本では1人の先生で3歳児20人です。全然違う環境の中で育てているとなれば、親が先生から聞く話もすごく少なくなるし、恐らく子どもの状況も把握し切れなと思います。何かあったとき、子どもの命を守るということにおいても、先生一人に対する子どもの人数や乳児医療の具体的なところで、もっと子育てがしやすいようになればいいなと、このアンケート結果を見ながら思いました。

(部会長)

はい、ありがとうございます。他の委員、何かございますか。いいですか。感じられたことでも。

(委員)

すみません。細かい疑問ですが、前回調査と今回調査の比較で何ポイント上がった、何ポイント下がったという資料がありますが、前回調査で不明・無回答の比率がかなり高くなっています。それを入れたままの前回調査と今回の調査を比較されているのですが、ポイント差の比較が参考になるのか疑問に思いました。不明・無回答は抜いて、有効回答数の中でパーセントを出し、前回調査とポイント差を比較するとできなかつたのでしょうか。

単発のアンケートであれば、無回答・不明が入っていても構わないと思いますが、前回調査との比較でポイント差を出すのであれば、不明・無回答を含めると参考にならず、不十分じゃないかと思いました。

(部会長)

例えばどの表で。

(委員)

土曜日の過ごし方ですとか。

(部会長)

28ページあたりですか。

(委員)

そうですね、28、29ページあたりです。前回調査で不明・無回答が多かったので、そこを抜いてパーセントを出せば、数字も変わってくるのではないかなと思いました。27ページの一番

下、高校生のところですけども、不明の回答が前回調査で20.9%とかなりの比率を占めていますので、それを抜かずに計算されています。

(部会長)

データによっては不明・無回答も回答ということですか。

(委員)

はい。ただ、それは一度きりの調査ではいいと思いますが、調査を比較するのであれば、不明・無回答の回答を抜いて、選ばれた項目のみで比較したらいいのではないのでしょうか。

(部会長)

だから、不明の中に答えがないとか、そういうのも含まれているのだったら、1つの質問のカテゴリーとしては成り立つかなという見方もできるのですかね。

(委員)

言い方として、学校にいるということが前回調査と比べて30ポイントに上がったという比較になるのかなと思いました。

(部会長)

今回調査と比較できるのかということですね。

(委員)

はい、そうですね。10ポイント上がった等の比較をもっと厳密にした方がいいのではと思いました。不明・無回答をあえて選ぶのかもしれないですけども、前回調査で不明・無回答の比率が多すぎるので、ちょっとどうかと思います。

(部会長)

回収の仕方も今回調査と前回調査とは違うかもしれません。

今回調査はアンケート用紙を配布して、すぐに回収という方法でやっていらっしゃるんですが、前回調査がどのように行われたか分かりません。

(部会長)

次回の部会で1つか2つ程度、不明・無回答を省いたもので比較していただけますか。

(事務局)

分かりました。

(部会長)

ありがとうございます。

何かお気づきの点ありますかでしょうか。

(委員)

やっぱり無回答が多いと思います。前回調査は5年前でしょうか。

(事務局)

はい。

(委員)

前回調査と今回調査では回答されている方が異なりますし、5年経過しているということもあり、昔よりは考えてくれているのかなと思います。

(部会長)

はい、ありがとうございます。何かありますか。

(委員)

私は、地域で子育て支援をしておりますが、幼稚園や保育所に通われている方は、先生や保

育士さんといった専門の方に相談できますが、私たちのように在宅で子育てをしている方を支援する団体では、答えられる範囲でしか答えられません。毎年、来られている方に発達障害の方が多いため、私たちがどこにつなぐのか、専門的なアドバイスを誰に受けるべきなのかと最近よく感じます。この子は明らかにおかしいとなっても、私たちは、保育士や幼稚園教諭の免許を持った人間ばかりではないので、専門的な立場でおかしいですよとお伝えすることはできません。だから、私たちがどうしたらいいのかと相談できる場所があればいいと思います。

あと、私の子どもが4月から中学生になり、携帯電話を持たせることにしたのですが、テスト前になると、「この問題がわかる人はいるか」みたいなメールが届くようです。それが恐らく学力低下につながっているのかなと感じます。それに、テスト前になると、ふらふらしている子どもたちがすごく多い。この調査結果を見たときに、土曜日、特に休日ですよ。中学生で学校にいない子どもたちが非常に多いなと思いました。中学校は3年間通うわけですよ。その中で、この人数だけしか学校にいない。何か企画あれば、参加したいという回答した子どもたちがいるのであれば、その機会を提供してあげると、もう少し子どもたちも変わるかなと思います。特に、地域の子育て支援については、私たちも日々ボランティアでやっていますので、そういう実態が少しでもあれば、活力にもなるし、施設や人材も充実できるかなと感じます。

（部会長）

はい、ありがとうございます。後半のあたりご意見いただきました。

2つ目の在宅で子育てをしている方を支援するサークルが専門的なアドバイスを受けたいとなった場合、何かアドバイスしていただけることや事例があったら教えていただけませんか。

（委員）

在宅で子育てをしている方の相談を保健師や地域子育て支援拠点事業のスタッフの方々には常にいろいろと試みておられると思います。すぐに機能するかどうかというのは分かりませんが、子ども・子育て支援新制度ではじまった利用者支援事業というのがあります。尼崎市では、少しずつ、1カ所から3カ所ぐらいに増やしていく予定となっていると思います。数そのものは足りないと思いますが、地域の中で、相談を受けて、専門のところへつないでいくという役割を果たすコーディネーター的な事業が始まると思いますので、ぜひ子育てサークルの皆さんにも知っていただけたらなと思います。

（委員）

すみません。何という事業ですか。

（委員）

尼崎市は総合的利用者支援事業という名前で行います。国の事業は利用者支援事業という名前で、新しくされる事業です。恐らく、保健師やスクールカウンセラー、あるいは発達支援専門の相談員、家庭児童相談室など、一般の家庭の方だと相談するには敷居が高くなるということの間に入られるような役割をされるのではと思います。

（委員）

それは、私たちが呼んで、来てもらう形ですか。

（委員）

ええ。そのような場合もあるでしょうし、その方が地域の中を巡回されることもあるかもしれません。国は、地域の中で元から活動されていて、様々な資源につながっていらっしゃる方がコーディネーターの役割をされるイメージを持っています。いわゆるソーシャルワーカーが

ぼんちやってくるというイメージとは少し違います。地域の中で、そのような役割をこれからつくっていければなというこの始まりの事業だと思います。

(部会長)

この4月からですか。

(委員)

はい。国の事業としては昨年度からやっていますが、尼崎市としては、これから始めていく、というものです。

(部会長)

事業計画の52ページに総合的利用者支援事業というのがありますね。

(事務局)

総合的利用者支援事業は、これから色々調べて検討していく内容になります。基本的には市民の方が誰でも相談できるようなところとして、身近なつどいの広場などで相談を受けられるような体制づくりをしていきたいと考えています。平成29年度に3カ所程度に増やしていきたいと考えています。

今1カ所ありますが、こちらは保育コンサルジュのような形で保育所や幼稚園、どこが望ましいかを紹介していくようなものです。本庁で実施されているものなので、それとは別に地域の相談窓口のようなことができるようにと思っておりますので、これから検討させていただきます。

(部会長)

はい、ありがとうございます。また、発足しましたら子育てグループにはきちっと周知を図られるのでしょうか。

(事務局)

もちろん、全市的に周知していくような形になります。

(部会長)

お願いいたします。ありがとうございます。

それでは、続きまして、何かありますでしょうか。

(委員)

悩みの相談相手として、担任の先生やスクールカウンセラーがほとんど入っていないことが気になります。勤務の適正化を図る中で、子どもと向き合う時間をつくったり、3週間のうち1週間、教育相談の日にちを確保していますが、これだけを見ると、学校の担任の先生の力が全く発揮されていない。スクールカウンセラーも週に1回の配置ですが、ほとんどが不登校の生徒のためのスクールカウンセラーのようなものですので、やはり子どもたちにもなじみがほとんどない。現場の意見として、もっと各校にスクールカウンセラーが週のうちにもっとたくさん配置されたり、担任の先生に相談してほしいなと思いました。

それとともに、母親の存在が非常に大きい中で、本校でも父子家庭や祖父母に育てられている生徒も増えてきています。そんな中、男性教師ではなかなかそこまで入りにくいものがありますので、そういう子どもにとっては、やはり何か色んな意味で違うものを考えていかなければいけないなと思いました。

(部会長)

ありがとうございます。確かに学校の先生に相談するとの回答率が低いですが、私の知っている限り、どのような調査でも先生に相談するというのは非常に低いです。先生に対して

は、何か評価が絡んでいるのではないかとか、自分のプライバシーのことは答えにくいとか、子ども自身が防御の姿勢になってしまうのでしょうか。

(委員)

学校では担任の先生や相談しやすい先生にしなさいと話をしていますが、本音で話ができない部分というのは、やっぱりあるのかなと感じます。

(部会長)

ありがとうございました。感想も含めてお願いいたします。

(委員)

まず、24ページですが、「大人にしてほしいこと」につきまして、興味深いデータかなと思っています。

私には高校生と小学生の子どもがいるのですが、「しつこく聞かないでほしい」と言われます。それはそうだと思います。でも、しつこく聞かなければ、子どものことは分かりません。ちょっと子どもの気持ちと大人の気持ちが相反するのが見てとれます。でも、私が中学生や高校生の頃を振り返ってみると、まさにこのとおりです。だから、自分も経験してきたことかなと思います。その中でも、少しほっとする部分については、「家族が仲良く一緒に過ごす時間を増やしてほしい」という選択されている子どももいますので、これは、すごく良い意見というか、子どももそういうふうにいるのかなと感じています。

それと、もう一点が41ページの「将来のことについて」ですけれども、この結果を見ると、やはり中高生は、将来のことをすごく気にしているのだと分かります。そういった意味では、これも安心できるのかなと感じています。

全体的にですが、子どもを直接支援することも必要ですし、子どもを育てている保護者を支援していくことも必要なのかなと感じました。

(部会長)

はい、ありがとうございました。24ページの結果からは、とにかくほっとしてほしいという感じがありましたけれども、41ページの「将来のことについて」は、やはりそれぞれの子もたちが色んな思いを持っているということですね。ありがとうございました。

(委員)

僕はアンケート結果が、実態をよく現しているなと思いました。無回答・不明が多いのは、それなりに答えにくい質問であるのかなと自分では解釈していますので、この選択肢は入れたままのほうが比較しやすいかなと私は思います。

もう一点、小学校や中学校では、私たちは子どもらと本音で話す時間がなかなか取れないのが実情です。もう一点、精神的に病んでいる保護者の方が以前と比べたら、すごく多くなったような気がします。子育ての悩みやら、色んなこともあると思いますが、もう学校だけで対応できない。子育て支援ワーカーや、医療機関とも連携しながら、対応している現状があることも知っておいていただけたらと思います。

(部会長)

はい、ありがとうございました。先ほどからございました項目も含めて、大きな課題だと思います。

(委員)

発達障害の方や引きこもりの方、その保護者の方が、お家でスマートフォンの使う上でのルールを守っていないとか、ほとんど約束がないとか、15ページの「きちんと守っている」、

「大体守っている」という方も実際に守っておられるのか、約束がないというような方のご家庭で、例えば親御さんがスマートフォンにはまっておられるのかもかもしれません。

(部会長)

親自身がですね。

(委員)

子どもが少しましになってきても、保護者がはまってしまっているケースや育児しながらずっと携帯電話を触っておられるケース、これらは子育て支援の方にかかわってくると思います。また、39ページの活動に参加したくない理由に「人とかかわるのがわずらわしいから」と選択肢がありました。そのような子どもに実際にどのように人とかかわらせるのかが個人的には興味があります。

(部会長)

どこかの自治体でまちぐるみでスマートフォンや携帯の使い方を高校生自身が実際にルールをつくっているところもありますね。

(委員)

単純なことですが、この調査を受けた子どもたちは、2000年前後に生まれた子どもたちです。その子どもたちがこの10年から15年の間に過ごしてきた環境の中でこういう結果が出ている。

この部会が設置されている意味として、この子たちをどうするかもあるでしょうし、もう一つは、子どもたちが「尼崎ってやっぱりいいやん」「ここに住み続けたい」「ここで子どもを産んで育てたい」となるためには、今のスマートフォンの問題も関連しますが、やはり子どもたちにとってリアルな生活、これも若者の言葉で「リア充」という言葉がありますけども、そのリアルな生活をどうやって充実させていくか、地域との結びつきであったり、家庭のこともあったり、そしてまた中学校、高校の先生方との結びつきであったり、そういうところで、この部会で、少しでも何か具体的に子どもたちに響くようなことを皆さん一緒に知恵を絞って、考えていければいいなと思います。

(委員)

青少年ということで注目して見ていましたら、24ページで、「自分のことは自分で決めたい」と回答した子どものパーセントが高い。それに、この部分との関連で、地域活動等の行事に関するアンケートがあったと思います。39ページで「行事に魅力がない」というデータがあって、ところが、「企画段階から参加したいか」というと、割と肯定率がそんなに低くないというあたりを見ると、余りにも大人がいろんなことを先回りしてセットし過ぎて、その中で動くという規定路線で動かすということが多いような気がしますので、何か違う方法があるのかどうかと思いました。

それから、もう一つは、将来のことですが、42ページ、「子どもが欲しいか、欲しくないか」に関連させて、42ページで、明らかに「自分の才能を發揮できる仕事につきたい」「収入が高い」「失業はしたくない」で、今の我々の大人の状況といえますか、社会状況をかなり正確に見ているのかなど。あるいは正確に見ているのか、周囲の大人が子どもにこういったことを愚痴っているのかもかもしれません。あと、N数が少ないので何とも言えませんが、54ページ。36人しかいませんが、ここで子どもが欲しくない理由として、「お金がかかる」「育児には負担がかかる」ですね。その下に性別もありますけれども、この辺が相互に関係していると思います。今の若い人たちに、希望を持たせないといけないのですが、そのためには、まず我々の働き方を何とかしないと、子どもは見ているということです。

また、54ページの性別で「お金がかかる」「自分の趣味やレジャーを優先させたい」は、男子が若干高い。一方で、「育児は心理的に負担がかかる」「仕事をしながら子育てするのは困難」というのは、やはり女子の方が育児の主体は自分なのだとして将来を覚悟しているのかもしれませんが、恐らく過去はもっと差があったのではないかと思います。最近では、男子でも育児に取り組もうという準備状態といえますか、レディネスが形成されつつあると聞いています。前回調査よりも前のアンケートがどうなっているのかわかりませんが、少し知りたいということです。

(部会長)

ありがとうございました。示唆に富んだお話をしていただきましたけれども、最後のところの54ページの性別で分けてある子どもが欲しくない理由の前の調査がありましたら、次回にまた。

(事務局)

はい、探してみます。

(部会長)

資料をお願いしたいと思います。それぞれのお立場から貴重な意見を頂戴いたしました。今日は資料が多くて、とにかく頭に入れるのが大変な作業だったかもわかりません。次回は、もう少し具体的なお話が出てくると思います。

5 その他

次回の日程等の事務連絡

閉会

以 上